

青年会議所が本当に国で必要とされる団体ならば、青年会議所が本当に地域に必要とされている団体ならば、青年会議所が本当に地域の為に必要な事業をしているならば、会員は勝手に入会してくるはずです。

青年会議所が本当に会員の為の組織であるならば、青年会議所が本当に会員企業への還元につながる活動をしているならば、青年会議所の活動が本当に会員にとって楽しいものならば、会員は自然に仲間を増やしたいと考えるはずです。

そんな青年会議所の活動を楽しくするのも、しないのも、全ては理事で構成されるメンバーの手に託されています。だからこそ理事の一人ひとりが考えて作り出した例会や事業が楽しいものでなければ、私達の活動は見直す事が必要になるのだと思います。第三者が見た時に、私達メンバーが国や地域の未来の為に考えたり、チャレンジしたり、楽しそうに話す姿の中にこそ J A Y C E E の魅力があるのではないかと思います。

青年会議所の魅力について主観的な理想を言うなら、組織としての魅力、J C 運動の事業の魅力、会員の魅力が三位一体の活動となった時にあると思います。そしてそれが伝播された時に、地域へ J C の魅力を伝える事が出来ると考えております。

その様な考え中で、2016年度の会員拡大推進室は「東金 J C の魅力発信」として、まずは事業の魅力を発信しようと考えてきました。その為に魅力ある事業の開催を目指して、計画づくりは、誰の為、何の為、成果にこだわる事を担当委員会と議論してきたつもりでいます。結果は測りしれないところですが、個人のやりたい事である前に、組織としてやるべき事と捉える様な意識変化に繋がったのではないかと思います。続いて魅力の発信手法として事業計画書の手法計画を詳細に盛り込ませて頂きましたが、手法にこだわり過ぎてしまい俯瞰的な考えが足りなかった事が反省する点となりました。その反省について自分自身を顧みると会員拡大を推進する為の仕組みづくりや、各委員会へ拡大の議論が不足していた事があります。会員拡大推進室は成果無しの結果に本当に申し訳ないと思います。

その中、本年は出向させて頂いた日本 J C の憲法意思確立委員会に関わらせて頂きました。一年を通して貴重な体験をさせて頂きましたが、自分自身が成長しているかわかりません。しかし、学んだことを来年度へ活かせればと思います。そんな不甲斐ない自分へ貴重な機会を与えて下さりました池原理事長には改めて感謝を申し上げます。そして各委員会メンバーには厳しい話をしたにも関わらず、誠実に対応して頂いた事をありがたく感じております。次年度も目的実現を目指して共に邁進お願い致します。